

事務事業評価の評価結果について（平成26年度の事業に対する評価）

スポーツ文化振興部

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成26年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成27年度以降の事業の方向性	所見
スポーツ振興課	一般事務事業	健康志向の高まりや余暇時間の増大などにより、より健康的で活力のある人生を送ろうという市民の問い合わせ、相談等に迅速で適切な窓口対応を実施します。併せて事務所の維持管理と事務環境の向上に努めます。	平成26年度予算額からの削減率	経常経費以外の一般事務費の削減率を目標とします。	1%	-20%		メッセウイング・みえの賃借料等が不要となりました。	3	事務の効率化により経費節減に努めていることと併せて、津市産業・スポーツセンター整備、推進事務が入札不調等によりコピー料金等の消耗品経費が支出されませんでした。	現状維持	効率的な窓口事務に努め、市民へのスポーツに関する情報提供を一層工夫すると共に事務管理経費の節減を図ります。
スポーツ振興課	スポーツ・レクリエーション振興事業	スポーツ・レクリエーション活動を通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的とした交流の機会づくりを推進します。また、スポーツ・レクリエーション活動の普及・振興のため、スポーツ教室の開催や各種団体への活動支援などに努めスポーツ・レクリエーション振興を図ります。	スポーツ・レクリエーション活動の振興の指標として、主要な大会等のイベントへの参加者数を定めます。	スポーツ・レクリエーションの振興のため、各種取り組みを進めることで、市民が週に1日以上スポーツを行っている人の割合を増加させます。ただし、毎年数値の確認が出来ないため、補足的に主要なスポーツ大会、教室などのイベントの前年度参加者数を上回ることを指標とします。	16,448人	16,840人		新たなステップアップスクールの開催と市民体育大会、スポーツ教室の参加者が増加しました。	3	本年度は平成30年インターハイ、平成33年三重国体を視野に入れたスポーツ競技力の向上事業として、全日本級の指導者による市内小学生を対象とした「ステップアップスクールin津」を新たに開催、また昨年度に続き吉田沙保里杯津市少年少女レスリング選手権大会を開催し、全国から予想を上回る参加者があり盛況に開催することができました。また、津シティマラソン大会等の各種大会・教室、イベントの開催やスポーツ奨励の補助、各種団体への支援などの実施により、多くの市民等がスポーツ・レクリエーション事業に参加いただきました。	拡充・充実	市民のスポーツニーズに対応した多様なスポーツ・レクリエーションの場を趣向を凝らして提供します。また、平成27年度については、平成30年インターハイ、平成33年三重国体を視野に入れて、津市のスポーツ競技力を向上を目的とした事業を引き続く実施するとともに、開催地としての準備業務を行います。
スポーツ振興課	スポーツ推進委員関係事業	市民のスポーツ・レクリエーション活動促進のための実技指導や組織を育成するとともに、地域住民に対しスポーツ・レクリエーションに関する指導や助言を行い、本市における地域スポーツの推進を図ります。	委員個々の資質向上を図るための研修会の開催	地域のスポーツ振興の推進役である委員個々の資質向上を図るための研修を年間10回以上開催し、スキルアップにつなげます。	10回	16回		地域でのニュースポーツの普及等のため、委員個々が高い志を持って研修に参加し、スキルアップを図ることができました。	4	地域のスポーツコーディネーターとして各地域でのスポーツ事業等に係る指導及び助言を行うとともに、各種研修会に参加しました。また、自主的に研修会を開催し、委員個々の資質向上を図りました。今後もそれぞれの地域での実情に応じたスポーツ推進を図れるよう、個々の資質向上に努めます。	拡充・充実	委員それぞれが、各地域の実情を鑑みながら各種スポーツ事業に積極的に取り組むとともに、全市的なスポーツ事業の企画運営を行っています。平成30年にインターハイ、平成33年に国民体育大会の開催が予定されており、今後、委員個々の資質を更に高め、それぞれの地域のニーズに対応できるよう努めていくとともに、全国規模の大きな大会運営の中核を担えるスキルを身につける必要があります。

スポーツ文化振興部

評価：4=できている 3=概ねできている 2=課題克服が必要 1=未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成26年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成27年度以降の事業の方向性	所見
スポーツ振興課	体育館管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 競技場を使用したバレーボール、バドミントン等の他、会議室を使用したエアロビクスや健康体操等、主に屋内スポーツの振興を図るものです。	運動施設利用者数	津市体育館の利用者数（平成24年度実績78,846人の1割増）。	78,846人	78,123人		平成25年度より多少利用者が減少しましたが27年度も指定管理者と連携を図りながら引き続き目標達成を目指します。	3	バドミントン、卓球、バレーボールの一般公開を継続できました。	現状維持	指標目標を達成できるよう引き続き、施設管理に努めます。
スポーツ振興課	野球場管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 また、野球等の市民スポーツの振興とともに、高校野球等集客性の高い試合の誘致による、コミュニティの拡大、中心地域の活性化を図ります。	運動施設利用者数	津球場公園内野球場の利用者数（平成24年度実績26,365人の1割増）	26,365人	26,629人		平成25年度に対し利用者減となりましたが、引き続き指定管理者と連携して施設の維持管理に努めます。	2	観覧者が多く集まれるよう、観覧席等の整備を進めます。	現状維持	高校野球地区予選等集客できるイベントの誘致に努めます。
スポーツ振興課	グラウンド管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 それぞれの施設の規模が小さいので大会等の開催はほとんどありませんが、軟式野球・ソフトボールを中心とした屋外スポーツの振興を図ります。	運動施設利用者数	津市北部運動広場、津市南部緑地公園内運動広場、津市乙部公園内運動広場、津市西部運動広場の利用者数（平成24年度実績12,591人の1割増）。	12,591人	13,606人		平成25年度に対し利用者減となりましたが、引き続き指定管理者と連携して施設の維持管理に努めます。	3	グラウンドによっては、駐車場が不足していたり、ネットフェンスの整備が必要なところがあります。今後既存施設の整備を充実して、利用促進を図ります。	現状維持	施設の整備に力を入れて利用促進を図ります。
スポーツ振興課	テニスコート管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 硬式テニス・ソフトテニス共に個人の使用からスポーツ教室、市民大会等、幅広い目的で利用されており、今後も市民に身近なスポーツ施設となるよう維持・管理を行いスポーツの振興を図ります。	運動施設利用者数	津市古道公園内テニスコート、津市古河公園内テニスコート、津市入江公園内テニスコートの利用者数の合計。（平成24年度実績54,807人の1割増）	54,807人	48,630人		平成25年度比減少となり、目標に届きませんでした。引き続き平成24年度実績の1割増を目標とします。	3	ほとんどのテニスコートで駐車場が不足しているため、既存施設の整備を充実させ、利用促進を図ります。	現状維持	これまでも大規模な改修を実施するなどしていることから、引き続き利用率向上に努めます。

スポーツ文化振興部

評価：4=できている 3=概ねできている 2=課題克服が必要 1=未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成26年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成27年度以降の事業の方向性	所見
スポーツ振興課	プール管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 近年のプールは水泳（競技）目的のみならず、水中ウォーキング等の健康づくりにも利用されており、水泳の振興、市民の健康増進を図ります。	運動施設利用者数	津市民プールの利用者数（平成23年度実績69,769人の1割増）。	69,769人	70,799人		平成25年度に対し利用者減となりましたが、引き続き指定管理者と連携して施設の維持管理に努めます。	3	施設は老朽化しており、運営管理に大変困難を生じています。利用者の利便性を向上を図ります。	現状維持	施設の整備についての要望が多くありますが、新たな施設の移転整備に着工したため、大規模な改修を避けて、利用者の利便性を求めています。
スポーツ振興課	その他運動施設管理運営事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。 海浜公園内陸上競技場は陸上競技場の他、市内で唯一の芝が張られたサッカー場もあり、大会等の誘致を図り、競技振興と交流の機会づくりを図ります。	運動施設利用者数	津市海浜公園内陸上競技場及びテニスコートの利用者数（平成24年度実績14,076人の1割増）。	14,076人	16,836人		指定管理者の自主事業等の努力により、平成25年度比約1.2倍増となり、平成24年度実績の1割増を達成しました。引き続き指定管理者と連携して施設の維持管理に努め目標達成を目指します。	3	サッカーの利用日の増加や会議室の多目的利用により利用者の増加を図ります。	現状維持	老朽した施設及び設備等の改修を行い、利用率の向上を図ります。
スポーツ振興課	運動施設整備事業	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の計画的な整備を行います。	目標値設定不可						3	津市スポーツ施設整備基本構想に基づき、各施設の整理と整備活用を行います。	現状維持	利用者の安全性を確保し、利便性の向上を図るため、計画的な整備を行います。
新産業スポーツ施設推進室	産業・スポーツセンター整備事業	本市のスポーツ施設については、老朽化した小規模な施設が多く存在し、全国規模の大会等が開催可能で市民の健康増進やスポーツ等を通じた交流の拠点となる施設が少ない状況にあります。 そこで平成22年5月に「津市スポーツ施設整備基本構想」を策定し、地域の核となる施設の整備や、総合的なスポーツ施設として大規模大会等が開催可能な拠点となるスポーツ施設の整備方針をとりまとめています。この基本構想を踏まえ、平成23年9月に「津市屋内総合スポーツ施設基本計画」として、総合的な屋内スポーツ施設の整備に向け具体的な計画策定を行い、その計画に基づき平成29年10月1日の施設供用開始に向けて事業を推進するものです。	津市産業・スポーツセンター整備に向けた準備項目の達成度	平成29年度の施設供用開始に向けた諸準備を進めていく過程で年度毎に準備項目を設けてその達成度を測ります。				<ul style="list-style-type: none"> 西側駐車場造成工事発注、施工 スポーツ施設建築・空調設備・電気設備・給排水衛生設備工事発注、施工 スポーツ施設意図伝達・工事監理業務委託 西側駐車場の造成は完成しました。 本体建設工事に係る3回目の入札（5月）は不調となったが、4回目の入札（12月）により落札者が決定し、27年2月の臨時議会で本契約締結、4月より着工となりました。	3	本体建設工事については、平成26年5月に実施した入札が不調になったことから、4回目の入札に向け、積算支援業務及び積算確認業務を実施し、入札不調に係る調査・分析等を実施した。その結果を受け、発注内容の見直し等を行い、同年12月に実施した4回目の入札により、落札者が決定し、平成27年2月の臨時議会の議決をもって本契約を締結し、4月より着工することとなりました。 なお、西側駐車場の造成工事及び北河路橋歩道整備詳細設計については、予定通り実施できました。	現状維持	平成29年10月1日の施設供用開始を目指して、長期に渡る工期の建設工事を計画的に進めます。

スポーツ文化振興部

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成26年度）						事業の評価		所管課長等による評価	
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成27年度以降の事業の方向性	所見
スポーツ振興課	産業・スポーツセンター経営企画事業	津市産業・スポーツセンターの供用開始に向けて、スポーツ施設と産業展示施設の一体的な管理運営について、行政視点だけでなく、民間ならではの経営感覚をもって、管理運営・経営手法に関する分析、調査を行い、それに基づく収支想定も含めた民活手法の指定管理者制度の導入を中心に一連の検討、整理についてアドバイザー業務委託を行い進めます。 また、既に指定管理者制度の導入などにより先駆的な管理運営、経営手法を実施している先進地を視察、検証することにより、民活手法を取り入れる方策を検討します。	津市産業・スポーツセンターの供用開始に向けた経営企画項目の達成度	一体的な施設供用開始に向け、年度毎に定性的目標を定め、その達成度を測ります。			本体建築工事の入札落札後の指定管理者公募の円滑な実施	本体建築工事の入札落札（26年11月）以降、平成27年度に指定管理者の公募を行う方針を決定し、公募の円滑な実施に向け整理を進めました。	2	入札不調により指定管理者の公募時期が不透明な中、平成25年度に行ったアドバイザー業務委託の成果内容の精査を行いました。平成27年度に公募を行う方針が決定した以降は、既存施設等の状況を整理し新設施設に置き換えるなどの作業を行いました。想定等が難しく、積み残し事項が発生しました。	現状維持	平成27年度に実施予定の、指定管理者の公募を円滑に実施できるよう整理を速やかに進めます。
スポーツ振興課	産業・スポーツセンター維持管理事業	津市産業・スポーツセンター（メッセウイング・みえ、サオリーナ、三重武道館）の維持管理を目的とするものであり、まずは平成26年4月に三重県産業支援センターから先行取得したメッセウイング・みえの整備・充実を進める。その後、サオリーナ、三重武道館の建設を受けて津市産業・スポーツセンターとして一体的な維持管理を行います。	津市産業・スポーツセンターの維持管理に向けた整備項目の達成度	一体的な施設供用開始以前（メッセ部分のみ）及び開始後における維持管理の目標を定めその達成度を測ります。			平成5年施設供用開始であるメッセウイング・みえの計画的な維持修繕を実施します。	市のリスクによって行うべき緊急的なものが無かったため未実施となっています。	2	市のリスクによって行うべき緊急的な修繕は無かったものの、今後はメッセウイング・みえの運営を踏まえた予防保全の観点から計画的な修繕が必要と考えます。	現状維持	メッセウイング・みえの長期修繕計画と現状を正確に把握し、修繕の可否を決定する必要があります。
文化振興課	津リージョンプラザ管理運営事業	津リージョンプラザは、市民の文化、芸術の鑑賞や発表、練習の場として活用していただくことにより、市民の教育、文化等の向上を目的としています。 貸し館事業として、主に市民を対象にお城ホール、展示室、ギャラリー及び会議室を10か月前から予約受け付けをして、貸出しを行っています。	利用率	人件費を始め経費の削減を図り、利用者の利便性に供する施設を目指すとともに、利用率の向上に努めることとし、一つの目安となる3/4の施設利用率を目標とします。	75%	目標に対する実績等の分析を参照	建物・施設の老朽化が著しいことから、平成18年度から、緊急性の高いものから計画的に設備等の大規模改修を行っています。今後も安定的な運営が出来るように適切に維持管理を行っています。	お城ホール： 平日 66.9% 土・日・休日 97.3% 全日 79.6% リハーサル室： 86.7% 計画的に修繕を実施することにより、休館せず運営が可能となり利用率の目的は達成できました。	3	施設の老朽により、管理運営に苦慮しているところですが、利用者の利便性に資するため、津リージョンプラザ中長期修繕計画に基づき、施設の整備活用を行います。	現状維持	老朽した建物、施設の改修を行い、利用率の向上を図ります。

スポーツ文化振興部

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成26年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成27年度以降の事業の方向性	所見
文化振興課	文化振興事業	住民の誰もが文化に触れ、親しみ、互いに交流ができ、文化を生活やまちづくりに活かすことを目指し、文化芸術活動の充実、歴史的資源の活用及び文化施設の有効活用を重点施策として推進します。	参加者数	多くの来場者で賑わい、人と人の交流する機会が生まれる場所では、文化意識の高揚がさらに図られ、新たな文化意識も芽生えと考えられ、まちも活性化すると思われ、ことから参加者数を指標にします。	63,850人	63,420人		まちづくり事業の成果もあり、一身田寺内町への来訪者数が多かったこと、その他の事業も概ね目標に近い来場者、参加者があったことにより、各事業とも周知に努める必要があります。	3	本市の文化振興の基本になる文化振興計画において、基本理念を「文化の継承、創造、交流による元気なまち「津」をめざして」と定め、心豊かな地域社会の実現に向けて、文化芸術の振興、地域文化の振興に努めることとしており、市民の文化活動発表の場として市民文化祭及び美術展覧会をはじめ、子どもたちが自ら企画運営する青少年文化芸術祭の開催、市民の文化芸術活動を支援する文化振興基金事業など、諸事業の実施により文化的な環境づくりを推進しました。	現状維持	文化振興計画の改訂を行い、平成26年度から平成29年までの新たな目標が設定されたことから、その方針に則り新たな事業展開を図ります。
文化振興課	文化振興基金事業	豊かな文化を育み21世紀に躍動する美しい京都の実現をめざして、文化振興基金運用益を活用し市民や市民文化団体が育む活動を支援します。	文化事業への助成金の交付件数	より活発な地域の文化団体や個人の文化事業活動の促進が、図られることから、助成金の交付件数を目標値に設定しました。	10件	4件		申請数4件のうち、助成数4件を選考しました。	3	多くの文化団体等に基金の趣旨を理解いただき、事業を展開することで市民の文化活動の促進ができました。今後も、基金を利用した事業補助の制度をPRし、市民の文化芸術活動を支援していきます。 また、自主事業として実施した羽田朝子記念映画上映会を今後も継続して実施していきます。	現状維持	津市文化振興基金活用事業は、文化の向上に寄与すると認められる市民や市民文化団体の活動に対して助成を行っており、更に、より多くの市民および市民文化団体に、補助事業を認知してもらえるように、周知を図ります。
文化振興課	文化ホール管理・企画運営事業	住民の利便性を重視した有効活用を図るため、文化、芸術活動の拠点、施設間の連携、住民サービスの向上など効果的な運用方法についての検討を行います。	指定管理者制度導入館数	劇場法に対応した企画管理運営の手法調査業務を委託することから、調査結果の報告書を指標とします。	2館	0館		文化ホールの指定管理者制度への移行へ向けて具体的な検討を行ったが、目標達成には至りませんでした。	3	現行のホール活用を市民の要望に沿ったものとすることや、平成24年6月の「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の施行による市内の文化ホールの有効活用を図るため、市民の文化力向上に向けた質の高い企画発案と、地域や地域の人材及びホールに関わる人材の育成を図るための各種独自企画の発案等、津市の文化ホールらしい企画運営を図るため、ホールの管理・企画運営手法調査を行いました。また、JCAユースクワイア事業の会場都市として事業をサポートすることで、全国的な文化事業の取り組みに参画することができ、文化施設の有効活用をはじめ、津市の文化風土や観光資源のPRにも繋げることができました。	現状維持	手法調査委託事業は、今後の施設管理と運営への移行に関して重要な基礎調査となり、これを元に指定管理者制度導入に向けた今後の管理運営方法を継続します。

スポーツ文化振興部

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成26年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成27年度以降の事業の方向性	所見
文化振興課	ホール整備事業	久居駅周辺地区のまちづくりにおける久居東鷹跡町エリアでのまちづくりビジョンに基づき、ホールの整備を行います。	有識者委員会意見書	(仮称)津市久居ホール整備基本計画検討委員会の意見をもとに、策定される整備基本計画を指標とします。	1冊	1冊		(仮称)津市久居ホール有識者委員会意見書の提出を受けました。	4	(仮称)津市久居ホール整備に向け、昨年策定された(仮称)津市久居ホール基本計画に基づき、文化ホールに関わる専門家4名で構成される有識者委員会においてホールの規模や内容を検討いただき、意見書としてとりまとめられ、提出を受けました。	現状維持	(仮称)津市久居ホール整備基本計画に基づき、有識者委員会の意見も参考に、久居駅周辺地区まちづくり事業のひとつとしてホール整備事業を進めます。